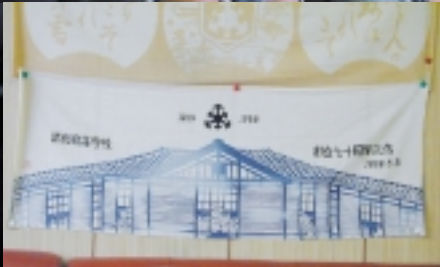
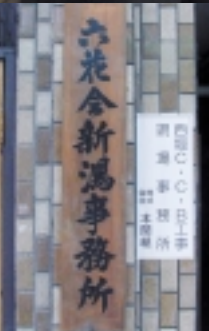




新潟市古町九番町  
六花会事務局



北方文化博物館新潟分館

# 六花寮の まちを歩く

## 西大畑界隈の記憶

特集  
総合大学の魅力  
すべてが教材  
フィールド・生活

六花寮座談会（前頁参照）を終え、日を改めて参加してくれた学生と一緒にかつての六花寮生が愛したまちを歩くことにしました。2001年9月21日、あいにくの小雨。六花寮副寮長、佐藤翔悟さん・六花寮祭実行委員長、神田大嗣さん・編集部1名の参加。（六花会事務局訪問は、当日撮影。他は、後日撮影した）

現六花寮の寮祭実行委員長、神田大嗣さんは、六花寮の大先輩から旧制高校時代の話を聞いて、まちから愛されていた六花寮生を知りました。神田さんは、座談会の前、六花寮祭の案内を持って、六花寮の前に広がる関屋金衛町の住宅街を歩いたことがありました。予想していた以上に関心が薄いことを知ってしまい、少々ショック。そんなことがあったので

なおさらに六花寮大先輩のお話に聞き入ったのであります。

そんなことがあって、まちを歩きました。イタリア軒で待ち合わせ、かつての六花寮生が愛した西堀を眺めますが、そこには柳があるだけで『堀』はありません。すぐに足を向けたのは古町9番町にある六花会の事務局でした。

突然の訪問にも関わらず、事務局の小

林美智子さんは快く迎えてくださり、寮歌集、写真集、六花寮史、絵はがきなどを見せてくださり、さらに、寮歌が録音されたテープを一緒に聴きながら、六花寮のルーツに浸ってきました。

堀割再生プロジェクトの写真展でかつての堀があった新潟の写真鑑賞し、西大畑界隈を車で周り、六花寮前の関屋金衛町も周りました。



新潟カトリック教会



行形亭周辺  
地獄極楽小路

どっぺり坂



副寮長の佐藤さん、そして神田さんは何を感じたのでしょうか？まちから愛されるには、まちを愛す学生がその前にあるような気がしてなりません。

かつての六花寮界隈を写真でご紹介します。あなたも、ぜひ歩いてみて下さい。

(編集部)

昭和9年新潟市図  
「写真集・あくがれてこし丘の上や」六花会より

